

大学入学者選抜における総合的な英語力評価を推進するためのワーキンググループ 英語資格・検定試験実施団体の取り組み状況について

実施団体： ブリティッシュ・カウンシル
(共同運営団体：日本英語検定協会)
資格・検定試験名称： IELTS

1. 経済的事情への配慮（（低所得者層への）検定料の減免等）

・受験者個々の経済的な状況に応じての減免ではなく、広く対象受験者の利益となる方策をとっています。→ 世界的な物価上昇の影響を受け、IELTS の受験料金は世界的に変更しているなか、大学入学者選抜における活用状況を考慮し、特定のテストセンターで実施している IELTS は料金を13年間変更していません。

・オンラインで無料教材や模擬テストを公開

(参考 URL : <https://www.britishcouncil.jp/exam/ielts/prepare>)

2. 地理的事情への配慮（オンライン受検システムの整備（不正行為防止対策等含む）、地方会場の拡充、高校会場の拡充等）

・利便性の高い場所での開催（主要駅周辺）

・オンラインテストの導入を検討

オンラインテストでの不正防止に関しては、世界的な運営規定を順守して行っています。また、最新の技術導入や改善を随時行い、不正行為の防止ならびに監視をしています。

(参考 URL : <https://www.eiken.or.jp/ielts/>)

(参考 URL : <https://takeielts.britishcouncil.org/take-ielts/book/ielts-online-test>
英語サイト)

3. 障がいのある受験者への合理的配慮の推進

・ IELTS は、障がいや特別措置の有無にかかわらず、英語運用能力を公正に評価します。

・全ての障害をもった受験生に個別に対応（日本英語検定協会では専門の窓口を設け、他のテストセンターで対応できなかった受験者を受け入れ）

・宗教・ジェンダーで配慮が必要な受験にも対応

(参考 URL : <https://www.britishcouncil.jp/exam/ielts/book-test/special-arrangements>)

4. 成績提供の利便性の向上

・ IELTS の成績認証システム (IELTS Test Report Form Verification Service) により、登録
・認定された高等教育機関等ではオンラインでの成績確認やダウンロードが可能
・受験者本人も自身の成績をオンラインで確認することが可能

(参考 URL : <https://www.britishcouncil.jp/exam/ielts/results>)

(参考 URL : <https://takeielts.britishcouncil.org/ielts-recognising-organisations/why-recognise-ielts> 受け入れ機関向け英語サイト)

5. 第三者評価の在り方、調査研究等

・試験の質や水準等に関する第三者評価のあり方や調査研究の実施→

1. IELTS Global Partners (IDP, Cambridge, British Council) 主導で試験の質、採点、受験者のパフォーマンスに関して、外部研究者による研究と調査を継続的に実施
2. 第三者機関 Ofqual による CEFR と採点基準、実際の結果に対する監査
3. 第三者機関 ALTE - the Association of Language Testers in Europe is a Charitable Incorporated Organisation による監査➡「Q-Mark」取得

・公正・公平性 (問題集の出版などを含む試験実施団体内部での利益相反等に関する問題への対応のあり方)

- 英国政府管轄の第三者機関 Office of Qualifications and Examinations Regulation (Ofqual:英国政府の資格と試験に関する監査機関)による監査によって公正公平性を担保

(参考 URL : <https://www.ielts.org/for-researchers/research-reports> 英語サイト)

(参考 URL : <https://www.gov.uk/government/organisations/ofqual/about#who-we-are> 英語サイト)

(参考 URL : <https://www.alte.org/Setting-Standards> 英語サイト)

大学入学者選抜における総合的な英語力評価を推進するためのワーキンググループ 英語資格・検定試験実施団体の取り組み状況について

実施団体： ETS Japan 合同会社

資格・検定試験名称： TOEFL iBT テスト/

TOEFL ITP テスト/TOEFL Essentials テスト

1. 経済的事情への配慮（（低所得者層への）検定料の減免等）

- ・ TOEFL iBT テストでは大幅な減額は難しいですが、一定額の減額は可能です。この件については引き続き検討いたします。
- ・ 団体テストの TOEFL ITP テストは、受験料は比較的安価に設定しております。さらに受験人数によって割引料金の設定もあります。

2. 地理的事情への配慮（オンライン受検システムの整備（不正行為防止対策等含む）、地方会場の拡充、高校会場の拡充等）

- ・ 公式テストの TOEFL iBT テストは、テストセンター受験・自宅受験のいずれも選択が可能です。
- ・ テストセンター受験と自宅受験で変わらないのは以下の点です。
 - ・ テスト内容
 - ・ 採点方式、スコアスケール
 - ・ 受験料・支払い方法
- ・ テストセンター受験と自宅受験で主に異なるのは以下の点です。
 - ・ テストセンターは土曜日・日曜日（一部の日程では水曜日も実施）で日に 1、2 回の実施、自宅受験は週 4 日、24 時間体制で実施可能
 - ・ 自宅受験は自分で機材（パソコン、マイク、スピーカー、カメラ、ネット環境等）を準備
 - ・ テストセンターはヘッドホン使用、一方の自宅受験はヘッドホン・イヤホンの使用不可
- ・ 自宅受験版での不正行為防止対策として以下のような取り組みを行っております。
 - ・ 受験者のカメラによる試験監督者のオンラインモニタリング
 - ・ テスト開始時の規定の身分証明書（ID）や受験する部屋の確認
 - ・ ID の顔写真と受験者本人の顔の顔認証
 - ・ テスト中のパソコンの遠隔操作・音声による指示
 - ・ AI 技術を併用しての受験者の視線や体勢のモニタリング(参考 URL: <https://www.toefl-ibt.jp/educators/at-home/>)
(参考 URL: <https://www.toefl-ibt.jp/educators/at-home/faq/>)
- ・ 団体向けテストの TOEFL ITP テストは、ペーパー版の他 2020（令和 2）年からデジタル版も提供しております。
 - ・ ペーパー版とデジタル版で変わらないのは以下の点です。
 - ・ テスト内容
 - ・ スコアスケール
 - ・ テスト料金
 - ・ デジタル版がペーパー版で主に異なるのは以下の点です。
 - ・ 受験者の事前登録が必要
 - ・ テスト終了後にその場でスコアが確認可能、監督者はスコアデータ一覧の保存も可能

- ・実施団体による学校受験・自宅受験のどちらかが選択可能
(参考 URL : <https://www.toefl-ibt.jp/toefl-itp/digital/>)
- ・TOEFL ITP テストデジタル版では、追加オプションとして Speaking セクションの実施も可能です。
(参考 URL : <https://www.toefl-ibt.jp/toefl-itp/digital/speaking/>)
- ・TOEFL ITP テスト/TOEFL iBT テストともに、高校等を会場として団体での実施が可能です。
- ・自宅受験型新テストの TOEFL Essentials テストを、2021 (令和 3) 年 8 月 21 日より運用開始いたしました。
(参考 URL : <https://www.toefl-ibt.jp/educators/toefl-essentials/index.html>)

3. 障がいのある受験者への合理的配慮の推進

- ・TOEFL iBT テスト：申し込みの時点で規定に沿って申し込んでいただき、各受験者に必要な配慮を行う個別のテストを手配いたします。
(参考 URL : https://www.toefl-ibt.jp/test_takers/toefl_ibt/disabilities.html)
- ・TOEFL ITP テスト：状況に応じて実施団体と連携して対応いたします。

4. 成績提供の利便性の向上

成績提供の利便性向上のために、各テストにおいて以下の取り組みを行っております。

- ・TOEFL iBT テスト
 - ・オンラインで申し込み
 - ・テスト終了時に、パソコン画面にリーディング/リスニングのスコア (非公式) 表示
 - ・テスト終了時に、スピーキング/ライティングを含めたスコアの確認可能日も表示
 - ・テスト日から 4~8 日後に受験者の ETS アカウント上でスコアの確認が可能
 - ・受験者用控のスコアレポートの PDF 版のダウンロードも可能
 - ・公式スコアレポートは、テスト日前日までに送付先を選択した場合 4 校までは無料配送
(参考 URL : https://www.toefl-ibt.jp/test_takers/toefl_ibt/scores.html)
- ・TOEFL ITP テストペーパー版
 - ・テスト実施後テスト資料到着から起算して 4 営業日目にスコアレポート発送するラッシュ・スコアリング・サービスの有料オプション有り
(参考 URL : <https://www.toefl-ibt.jp/toefl-itp/score.html>)
- ・TOEFL ITP テストデジタル版
 - ・テスト終了後にその場でスコアが確認可能、監督者はスコアデータ一覧の保存も可能

5. 第三者評価の在り方、調査研究等

第三者評価として非政府機関である国際標準化機構 ISO から、以下の認証を取得しております。

- ・ISO 9001: 品質マネジメントシステム、DEKRA より取得
- ・ISO 27001: 情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)、NQA(National Quality Assurance)より取得
- ・ISO 22301: 事業継続マネジメント (BCMS)、Intertek より取得

大学入学者選抜における総合的な英語力評価を推進するためのワーキンググループ 英語資格・検定試験実施団体の取り組み状況について

実施団体：(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会
資格・検定試験名称：TOEIC Program

1. 経済的事情への配慮（（低所得者層への）検定料の減免等）

・TOEIC Programの受験方法には、①公開テストと、②団体特別受験制度（以下IPテスト）の2つ受験方法がございます。

公開テストは個人単位での申し込み、IPテストは各学校単位での申し込みとなります。受験料は公開テストに比べ、IPテストの方が安価に設定しております。例えば、初級～中級学習者を対象としたTOEIC Bridge L&Rでは、公開テスト受験料4,950円に対し、IPテストでは2,970円となります。また、賛助会員制度にご入会いただいた学校については受験料割引特典が適用され1回あたりの受験者数に応じ以下の価格にてご提供いたします。

299名以下の場合 2,200円

300～999名の場合 1,870円

1,000名以上の場合 1,650円

2. 地理的事情への配慮（オンライン受検システムの整備（不正行為防止対策等含む）、地方会場の拡充、高校会場の拡充等）

(ア) 地方会場の拡充

・公開テストにおいては、幅広い大学での入試に活用が可能と考えております、TOEIC Bridge Testsの受験地拡大を推進しております。

【TOEIC Bridge L&R 公開テスト】

2023（令和5）年度より地方受験地の9都市を追加し計22都市にてご受験が可能となりました。

(参考 URL) https://www.iibc-global.org/toEIC/test/bridge_lr/guide01.html

【TOEIC Bridge S&W 公開テスト】

2023（令和5）年度より地方受験会場を拡充し全国12都市にてご受験が可能となりました。

(参考 URL) https://www.iibc-global.org/toEIC/test/bridge_sw/guide01.html

【TOEIC L&R 公開テスト】

全国各都道府県に受験会場を設置済みです。

(参考 URL) <https://www.iibc-global.org/toEIC/test/lr/guide01/schedule/area.html>

【TOEIC S&W 公開テスト】

全国12都市にてご受験が可能です。

(参考 URL) https://www.iibc-global.org/toEIC/test/sw/guide01/guide01_01/sche.html

各種 TOEIC Program 公開テストにおいては、受験する方々に寄り添った施策を引き続き実行してまいります。詳しくは下記サイトを参照ください。

(参考 URL) <https://www.iibc-global.org/toEIC/service/better.html>

(イ) 高校会場の拡充

・ IPテストはテスト実施日時および実施場所を受験団体様にて任意で設定できますので、例えば学校内での受験も可能です。

(ウ) オンライン受検システムの整備およびオンライン受検における不正対策

・ IPテストにおいては、TOEIC Tests および TOEIC Bridge Tests とともにすべてのテストプログラムがオンラインで受験可能となっております。

不正行為防止策としては、①Zoomを用いた試験官によるリモート監視、②Webカメラを用いたAI監視（以下、AI監視サービス）の2つを提供しております。2021（令和3）年3月より提供を開始したAI監視サービスでは、受験中の様子を録画したデータから、AIが「受験者の入れ替わり」「複数人の映り込み」「不正の可能性が高い視線の動き」などを解析します。団体ご担当者様は、AIによる不正検知結果と録画データ（テスト開始直前に撮影する本人確認書類を含む）を専用サイト上で確認いただけます。この録画データにはAIによる不正検知のポイントがマークされているため、的を絞ってチェックすることが可能となります。

(参考資料) 【添付資料】AI監視サービス概要

3. 障がいのある受験者への合理的配慮の推進

・ 全ての TOEIC Program 公開テストにおいてプライオリティサポートを受け付けております。

【TOEIC L&R 公開テストにおける対応例】

- 視覚に障がいのある方
拡大版解答用紙のご準備（サイズは最大4種類）
拡大版問題用紙のご準備（通常問題をA3サイズに拡大）
点字受験のご準備
- 聴覚に障がいのある方
スピーカー近くの座席のご用意
リスニングセクションにてイヤホンまたはヘッドホンを利用
リーディングセクションのみのご受験
- 上肢に障がいのある方
拡大版解答用紙のご準備（サイズは最大4種類）
拡大版問題用紙のご準備（通常問題をA3サイズに拡大）
口述等での解答対応（試験官が解答用紙に代筆いたします）
- 下肢に障がいのある方
車いすでの受験への対応
1階教室での受験、もしくはエレベーター利用可能会場へのご案内
- その他のサポート（内部障がい、精神障がい、発達障がい等のある方）
座席位置の指定（出入り口に近い座席のご用意等）
試験時間の延長（通常1.5倍もしくは2倍）※延長には医師の診断書が必要です

適時必要なサポートをご提供出来るよう、専用の「お問い合わせフォーム」をご準備しております。

(参考 URL) https://www.iibc-global.org/toEIC/priority_support.html

4. 成績提供の利便性の向上

- ・2022（令和4）年6月より「公開テスト スコア確認サービス」の提供を開始いたしました。

本サービスは、学校・企業などの団体が、受験者から TOEIC 申込サイト経由で提出されたスコアを、Web で確認・ダウンロードすることができるサービスです。大学や大学院入試の英語外部試験利用や、企業への公開テストのスコア提出など、幅広く活用いただけるものと考えております。

(参考 URL) <https://www.iibc-global.org/iibc/press/2022/p196.html>

- ・2023（令和5）年4月実施分よりデジタル認定証の提供を開始いたしました。

大規模検定試験においてデジタル公式認定証の発行は日本初*の取り組みとなります。

(※当協会調べ)

紙の公式認定証が使用されることの多い入試や就職などのシーンにおいて、近年はWEBでの出願やエントリーが主流となってきています。こうした中で、当協会では紙で発行してきた公式認定証のデジタル化の検討を進めており、このたびブロックチェーン技術を活用することで、紙の公式認定証の偽造防止と同程度に改ざんを防止できるデジタル公式認定証を発行することが可能となりました。このデジタル公式認定証の導入により、スコアがオンラインでも提出でき、提出側ならびに受領側の双方において利便性向上につながることを期待しております。

(参考 URL) <https://www.iibc-global.org/iibc/press/2023/p220.html>

5. 第三者評価の在り方、調査研究等

- ・2022（令和4）年6月～7月にかけて全国検定振興機構による【新型コロナウイルス感染症対応】試験会場実地評価を受審いたしました。

公開テストにおいて、受験者の皆様の安全に十分配慮したテスト実施がおこなわれているか、客観的な評価を行うべく、特定非営利活動法人 全国検定振興機構が実施する「【新型コロナウイルス感染症対応】会場運営評価」を受審いたしました。

結果として、全項目ともに100%合格となり受験者の皆様にご安心いただいで受験できる環境を提供できているとの結果が示されましたが、更なる向上を求め引き続き運営改善に努めてまいります。

(参考 URL) <https://www.iibc-global.org/info/important/imp33.html>

- ・TOEIC L&R と TOEIC Bridge L&R の語彙と中高英語教科書の語彙の対応状況について筑波大学 卯城祐司教授、同学大学院 小室竜也氏協力のもと調査研究を実施しました。

本研究では、TOEIC L&R Test と TOEIC Bridge L&R Tests で使用されている語彙が、新課程の中高英語教科書や共通テストで使用されている語彙とどの程度対応しているのかなどについて調査したものです。

今回の研究により、中高英語教科書*で学習する語彙が初中級者向けの TOEIC Bridge L&R で使用されている語彙の約91%をカバーしていることが判明しました。また、同様の基準で、TOEIC L&R で使用されている語彙においては約71%のカバー率ということも判明しました。

※令和4年度の新学習指導要領に基づく検定教科書（中学4社、高校2社）高2高3は旧学習指導要領に基づく

(参考 URL) <https://www.iibc-global.org/iibc/press/2023/p228.html>

大学入学者選抜における総合的な英語力評価を推進するためのワーキンググループ 英語資格・検定試験実施団体の取り組み状況について

実施団体：Cambridge University Press & Assessment

資格・検定試験名称：ケンブリッジ英語検定（含4技能 CBT <Linguaskill リンガスキル>）

1. 経済的事情への配慮（（低所得者層への）検定料の減免等）

・現在、家庭の経済状況にかかわらず、ケンブリッジ英語検定4技能 CBT（Linguaskill リンガスキル）については、昨年度に引き続き2024（令和6）年度大学入試利用予定者全員を対象に応援価格を提供中。

公開会場・自宅受験ともに受験生割引（全科目（4技能）において大学入試利用予定者は約20%オフ、公開会場：¥9,000→¥7,200、自宅受験（遠隔監視システム使用料含む）：¥10,000→¥8,200）

応援価格を提供中のケンブリッジが認定する試験センターの参考 URL：

<https://www.kawai-juku.ac.jp/cambridge-english/linguaskill/>

・経済的事情への配慮（検定料の減免等）は現時点では制度として特段設けてはいないが、現在進行中の政府による進学のための確保に係る議論に資するべく、ケンブリッジ本部と連携しつつ、引き続き検討予定。

2. 地理的事情への配慮（オンライン受験システムの整備（不正行為防止対策等含む）、地方会場の拡充、高校会場の拡充等）

◆オンライン受験システムの整備（不正行為防止対策含む）

ケンブリッジ英語検定の4技能 CBT（Linguaskill リンガスキル）はオンラインテスト

・遠隔試験監督システムの活用

AI 監視&人の目によるモニタリング、完全に確認できない場合は Test Report の発行無し

・日本国内での大学入試活用に対する限定サービス

「自宅受験」と「公開試験会場受験」が判別可能なテストレポートの発行

コピーで透かしが入る正本を発行

（参考 URL：<https://www.kawai-juku.ac.jp/cambridge-english/linguaskill/>）

◆地方会場の拡充

・2018（平成30）年より試験センター（河合塾）の協力を得て離島（奄美大島、沖永良部島、福江島等）でパイロットとなる試験を実施

・2023（令和5）年度、公開試験会場ではないが、自校開催では地方会場増（例：沖縄）

公開試験会場に関する情報：

（参考 URL：<https://www.cambridgeenglish.org/jp/exams-and-tests/exam-dates/>）

◆高校会場の拡充

・A2 Key および B1 Preliminary for Schools は希望日に試験実施できる「フレックス試験日」（教師に試験監督等の負担がかからない試験のため「働き方改革にも資する試験」ということもあり）自校開催が増加傾向

3. 障がいのある受験者への合理的配慮の推進

- ・弊機関 HP「受験上の配慮」に記載
(参考 URL : <https://www.cambridgeenglish.org/jp/help/special-requirements/>)
- ・4技能 CBT (Linguaskill リンガスキル) の合理的配慮に関するご案内 (英語)
(参考 URL : <https://www.cambridgeenglish.org/Images/553927-linguaskill-special-requirements-test-options-summary.pdf>)
- ・「Supporting learners with dyslexia: A guide for teachers」 (ディスレクシア<難読者>の学習者支援:教師のためのガイド (英語) は、ケンブリッジ英語検定(A2 Key for Schools～B2 First for Schools)を受験する難読者を指導される先生のための小冊子を HP で公開。
(参考 URL : <https://www.cambridgeenglish.org/Images/609744-supporting-learners-with-dyslexia-a2-keys-for-schools-b1-preliminary-for-schools-and-b2-first-for-schools-a-guide-for-teachers.pdf>)

4. 成績提供の利便性の向上

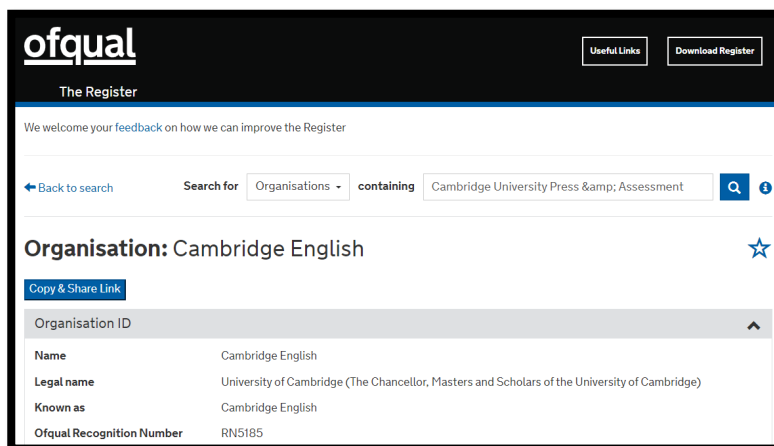
- ・ケンブリッジ英語検定 PB 版 : 受験後約 1 か月後に受験者が Results Service for Candidates (オンライン受験者用成績照会サービス) で結果閲覧可。
- ・2024 (令和 6) 年春よりケンブリッジ英語検定 CB 版が「デジタル版」に移行。
(内容の変更なし、プラットフォームの変更)。試験結果は 5 日～10 日後にオンラインで閲覧可能となり更に便利に。日本では認定試験センターがトライアルを経て導入する予定。
(参考動画 <https://youtu.be/7iHaYotp8wI?t=51>) (英語)
- ・「オンライン成績確認サービス:RVS(Results Verification Service)」
ケンブリッジ英語検定の試験結果を、希望する機関や団体に無料で直接知らせることができるサービス。安全かつ迅速に試験結果を提出先機関が確認できる。
(参考 URL : <https://www.cambridgeenglish.org/jp/Images/687490-652049-candidate-result-portal-guide-japanese-2023.pdf>)
- ・Linguaskill リンガスキル (ケンブリッジ英語検定 4 技能 CBT/オンラインテスト) :
最速 48 時間*以内に試験センターに対し結果を提供可
*英国 2 営業日以内。その後試験センターがテストレポート等を用意し受験者/団体宛に返却共有するまで 1 週間程度必要。
(参考 URL : <https://www.cambridgeenglish.org/jp/exams-and-tests/linguaskill/information-about-the-test/how-results-are-presented/>)

5. 第三者評価の在り方、調査研究等

◆第三者評価の在り方

- ・Ofqual(The Office of Qualifications and Examinations Regulation : イングランドにおける資格、試験、評価に関する政府の法定監督機関)により弊機関は資格授与団体として認定されている。ケンブリッジ英語検定(Cambridge English Qualifications)と IELTS について、以下の通り Ofqual 認定番号 RN5185 を持ち、「University of Cambridge (The Chancellor, Masters and Scholars of the University of Cambridge)*」を正式名称として認定取得。また、ウェールズ (Qualifications Wales) および北アイルランド (Council for the Curriculum, Examinations & Assessment、CCEA) の法定監督機関からも相互協定を通じて認定取得。

*ケンブリッジ大学（ケンブリッジ大学の総長、修士及び学士）



(参考 URL : <https://register.ofqual.gov.uk/>)



認定証 (Certificate) サンプル
B1 Preliminary Grade B
(Cambridge English スケールスコア 153)

- ALTE (ヨーロッパ言語テスト協会) の監査でケンブリッジ英語検定全てについて、ALTE の基準をクリアした品質を保証する「Q マーク」が付与されている。
A2 Key~C2 Proficiency の試験は、5年に一度行われる監査が今年 2023 (令和 5) 年に実施され、Q マークが引き続き付与された。次回は 2028 (令和 10) 年監査予定。

| | | | | | | | | |
|---------|------------------------------|--|--|---|---|---|--|---|
| | | | | Cambridge English: Key • Audit valid until: 15 August 2028 | Cambridge English: Preliminary • Audit valid until: 15 August 2028 | Cambridge English: First • Audit valid until: 15 August 2028 | Cambridge English: Advanced • Audit valid until: 15 August 2028 | Cambridge English: Proficiency • Audit valid until: 15 August 2028 |
| English | Cambridge Assessment English | | | Cambridge English: Key for Schools • Audit valid until: 15 August 2028 | Cambridge English: Preliminary for Schools • Audit valid until: 15 August 2028 | Cambridge English: First for Schools • Audit valid until: 15 August 2028 | | |

(参考 URL : <https://www.alte.org/Setting-Standards>)

- 品質管理システムの国際規格 ISO 9001:2015 の認証継続
監査は英国規格協会 (BSI) により年 2 回行われ、その監査対象はすべての基幹業務プロセスに関するものであり、弊機関がこの規格に遵守していることを保証。

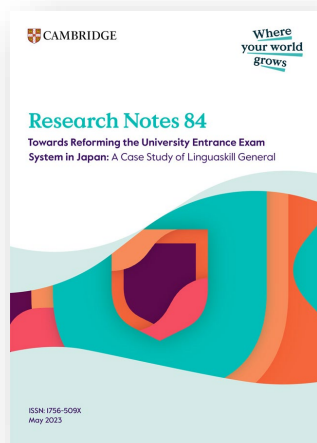
◆調査研究等

- JALT2022 全国語学教育学会 共同発表
“University Perspective of Online 4-Skills Placement Testing”
(大学が考えるオンライン 4 技能プレイスメントテストのあり方)
ケンブリッジ英語検定 4 技能 CBT (Linguaskill リンガスキル) をプレイスメントテストとして導入した大学による結果分析と 4 技能可視化の重要性に関する報告

- Cambridge English 研究助成プログラム報告書 (2023 (令和5) 年5月)
Research Notes* 第84号として弊機関HPにて公開中。 “Towards Reforming the University Entrance Exam System in Japan: A Case Study of Linguaskill General” 日本の大学入試制度改革に向けて：リンガスキル (General) のケーススタディ

*Research Notes は、ケンブリッジが提供するテストに関する研究、テスト開発、検証等に関する事項や、弊機関より助成を受けた研究スキームについて報告するジャーナル。

(参考 URL : <https://www.cambridgeenglish.org/english-research-group/published-research/research-notes/>)



(参考 URL : <https://www.cambridgeenglish.org/Images/685092-research-notes-84.pdf>)

大学入学者選抜における総合的な英語力評価を推進するためのワーキンググループ 英語資格・検定試験実施団体の取り組み状況について

実施団体：(株)ベネッセコーポレーション
資格・検定試験名称：「GTEC」検定版・「GTEC」CBT タイプ

1. 経済的事情への配慮（（低所得者層への）検定料の減免等）

経済的事情等、特定の受検者に対する検定料の値引きは行っていません。

2. 地理的事情への配慮（オンライン受検システムの整備（不正行為防止対策等含む）、地方会場の拡充、高校会場の拡充等）

- 「GTEC」検定版 学校検定型では自身の高校・中学校にて受検ができ、年3回検定日を設定しています。
- 「GTEC」検定版 公開会場受験型、およびCBTタイプは、全国の都市で年1回以上受検できるよう検定会場を設置しており、より多くの受検者が、簡便、かつ、公平に受検できるよう配慮しています。
- 「GTEC」検定版およびCBTタイプでは、オンライン受検（自宅など指定の会場以外での受検）は行っていません。

「GTEC」検定版 公開会場受験型 会場設置エリア（2023（令和5）年度実績）

札幌市、仙台市、新潟市、東京23区、横浜市、名古屋市、金沢市、京都市、大阪市、広島市、福岡市

「GTEC」CBTタイプ 会場設置エリア（2023（令和5）年度実績）

札幌市、青森市、盛岡市、仙台市、秋田市、山形市、郡山市、水戸市、宇都宮市、前橋市、さいたま市、千葉市、東京23区、横浜市、新潟市、富山市、金沢市、福井市、甲府市、長野市、岐阜市、静岡市、名古屋市、津市、近江八幡市、京都市、大阪市、神戸市、奈良市、和歌山市、鳥取市、松江市、岡山市、広島市、福山市、下関市、徳島市、高松市、松山市、高知市、福岡市、佐賀市、長崎市、熊本市、大分市、宮崎市、鹿児島市、那覇市

※「GTEC」検定版 公開会場受験型および「GTEC」CBTタイプの会場設置エリアは実施回ごとに異なり、上記は2023（令和5）年度に1回以上の設置実績があるエリアです。

（参考 URL）

学校受検型およびCBTタイプ：

<https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/overview/2023.html?referrer=https%3A%2F%2Fwww.benesse.co.jp%2Fgtec%2Ffs%2F>

公開会場受験型：

<https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/bckk/>

3. 障がいのある受検者への合理的配慮の推進

○病気・負傷や障がい等による受検時の配慮を以下の通り行っています。

- ・視覚関係：各種問題冊子（点字版・拡大版（写真やイラストを文字化）・拡大冊子・白黒印刷冊子）の提供と時間延長
- ・聴覚関係：受検免除・聞き取り時の配慮や音声内容補助冊子の提供
- ・きつ音・発話障がい関係：受検免除・時間延長・採点時の配慮の対応
- ・上肢不自由：時間延長・解答方法の変更
- ・発達障害：解答方法の変更

※検定版と CBT タイプで配慮内容は異なります。

- ・検定版は、添付資料「3_検定タイプ」をご確認ください。
- ・CBT タイプは下記となります。
 1. 視覚関係：拡大表示モニターの利用を希望する。
 2. 聴覚関係：Listening・Speaking の受検免除を希望する。
 3. きつ音・発話関係：Speaking の受検免除を希望する。
 4. 肢体不自由：車いすの利用を希望する。

4. 成績提供の利便性の向上

- 「GTEC」Advanced／Basic／Core タイプ検定版（学校内での実施、および公開会場受験型を利用したの実施を含む）と、「GTEC」CBT タイプのそれぞれにおいて、「成績提供に関するサービス」を提供しています。

「GTEC」オフィシャルスコアは、2023（令和 5）年度入試の段階で、国内外あわせて **739 の大学・短期大学** に入試活用されています。国内で活用できる **募集単位数は 13,089** まで拡大しています。（※弊社調べ。一般選抜・総合型選抜・学校推薦型選抜等の合計。国公立・私立・短大含む）。

【検定版】

- ・「大学入試成績連携システム」にご登録いただいている大学では、「GTEC」検定版受検者のオフィシャルスコアを、ウェブ上で確認可能です。
（参考 URL：<https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/schoolofficials/gradenumber.html>）
- ・受検者は、自分の「GTEC」検定版オフィシャルスコアを大学に連携することに同意をしたうえで、大学への成績連携に必要な「成績番号」を取得します。受検者から大学に「成績番号」と連携同意時に登録する「生年月日」を通知することで、大学側は「大学入試成績連携システム」にて、受検者の「GTEC」検定版オフィシャルスコアを閲覧可能となります。
- ・受検者向けには、本サービスについて「GTEC」オフィシャルスコア証明書ならびに「GTEC」公式ウェブサイト等にてご案内をしています。
（参考 URL：<https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/gradenumber/>）

【CBT タイプ】

- ・「CBT タイプ スコア照会機能」にご登録いただいている大学では、「GTEC」CBT タイプ受検者のオフィシャルスコアを、ウェブ上で確認可能です。
（参考 URL：<https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/schoolofficials/check.html>）
- ・受検者は、受検申込時に、大学への成績連携に必要な「Test ID」を取得します。受検者から大学に「Test ID」と受検申込時に登録する「生年月日」を通知することで、大学側は「CBT タイプ スコア照会機能」にて、受検者の「GTEC」CBT タイプオフィシャルスコアを閲覧可能となります。
- ・受検者向けには、本サービスについて「GTEC」CBT タイプ受検申込時にご案内をしています。

5. 第三者評価の在り方、調査研究等

○第三者評価の在り方：

2018（平成30）年度全国検定振興機構第三者評価・自己評価を実施しています。

<https://www.zenken.or.jp/hyoka>

<https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/pdf/self-assessment2018.pdf>

2023（令和5）年度全国検定振興機構第三者評価（簡易版）を受審中です。

○調査研究等：「GTEC」に関する各調査や学会発表事例は以下となります。

【2022（令和4）年度】GTECスコアとCEFR・CEFR-Jレベル関連付け調査

【2020（令和2）年度】

A validity investigation on the Speaking and Writing Sections of GTEC

【2019（令和元）年度】Validation and Linking Scores for GTEC White Paper

【2018（平成30）年度】GTECスコアとCEFR-Jレベル関連付け調査

【2017（平成29）年度】GTECスコアとCEFR関連付け調査(A1)

【2017（平成29）年度】GTECスコアとCEFR関連付け調査(A2～C1)

【2017（平成29）年度】GTECスコア統合調査結果

【2016（平成28）年度】

GTEC CBT and English language education in Japan: A study of washback

【2016（平成28）年度】

多相ラッシュ分析を用いたGTEC CBTスピーキング評価者信頼性の検証（1）

（参考URL：<https://www.benesse.co.jp/gtec/schoolofficials/research/>）

大学入学者選抜における総合的な英語力評価を推進するためのワーキンググループ 英語資格・検定試験実施団体の取り組み状況について

実施団体： 公益財団法人 日本英語検定協会
資格・検定試験名称：実用英語技能検定（英検）、TEAP

1. 経済的事情への配慮（（低所得者層への）検定料の減免等）

弊協会は、公益財団法人であるため、収支相償の考えに則り、収支のバランスを考慮して検定料を設定しています。つまり、実施運営にかかる費用に対する想定される級別の受験者数に基づいて検定料が決定されますので、全国で一律の検定料となります。

一方で、学校や塾などの団体が設置する「準会場」は、全国で約 20,000 団体にご協力いただいております。準会場の検定料は、前述のとおり、会場費や人件費などが本会場に比べて安価であるため、自ずと安く設定されています。弊協会では様々な施策を行い、準会場に登録されている団体（学校、学習塾、英会話学校など）に協力を仰ぎ、特に全国各地の学習塾については、所属生徒以外の近隣地域の子供たちをできるだけ多く受け入れていただけるように働きかけており、英検を受験したい方には、本会場よりも安価な準会場の検定料で受験いただけるように取り組んでいます。（ただし、学校の場合は、昨今の教員の働き方改革の進展により、積極的な活用の度合いは若干控えさせていただきます。）

なお、準会場に関しては、セキュリティ監視を強化するなど、本会場と同質な環境作りに努めています。

参考 URL：[検定料 | 英検 | 公益財団法人 日本英語検定協会 \(eiken.or.jp\)](#)

2. 地理的事情への配慮（オンライン受検システムの整備（不正行為防止対策等含む）、地方会場の拡充、高校会場の拡充等）

英検の試験は本会場（協会が指定する公開会場）が全国で約 400～450 会場あり、さらに準会場（協会が審査・認定し学校や塾などの団体が設置する会場）が約 20,000 団体あり、全国津々浦々で試験を実施しています。また、離島や僻地でも試験を実施して受験機会を提供しています。この点を考慮しますと、英検では地理的事情への配慮をおこなっていると言えるかもしれません。

また、可能な限りオンライン会議システム等を利用した試験（面接）を提供していく予定であり、今後もこの取り組みを継続していきます。

さらに、CBT 形式の試験『英検 S-CBT』に関しては、全国 47 都道府県の約 80 のエリアで実施しており、本会場での従来型の英検が年 3 回の試験を実施しているのに対し、CBT 形式では少なくとも毎週末に試験を行い、受験機会の拡大に努めています。

参考 URL：[会場 | 英検 | 公益財団法人 日本英語検定協会 \(eiken.or.jp\)](#)

参考 URL：[英検 S-CBT | 公益財団法人 日本英語検定協会 | ライティングは手書き受験可能、毎週実施、1日4技能受験 \(eiken.or.jp\)](#)

3. 障がいのある受験者への合理的配慮の推進

英検協会では、障がいのある方にも可能な限り受験機会を提供すべく、視覚障がい・聴覚障がい・肢体不自由・発達障がい等の区分に応じ 15 種類の配慮メニュー（一次・二次試験の合計数）を提供しており、一回あたり約 1,000 名の受験者が利用しています。

通常の配慮メニューのみでの対応が困難な申請を受けた場合には、各種専門家による受験上の配慮委員会で審議のうえ、受験者の要望に応じた個別対応を行っています。

参考 URL : [受験上の配慮について | 英検 | 公益財団法人 日本英語検定協会 \(eiken.or.jp\)](#)

4. 成績提供の利便性の向上

英検協会では、2つの方法にて、大学等への成績結果の提供を行っております。

① 団体向け成績提供システム

成績に基づいた学習指導や入試でのスコア提出などご活用いただくために、受験者の成績結果を任意の団体にご提供するシステムです。受験者が個人受験した場合でも、また別の団体で受験した場合でも、受験者の承諾のもと、「英検」「英検 S-CBT」「TEAP」などの成績を団体の責任者が閲覧できるようになります。

参考 : [団体向け成績提供システムのご案内 | 公益財団法人 日本英語検定協会 \(eiken.or.jp\)](#)

② 英検成績ダウンロードシステム

英検の資格・成績を大学入試に活用される大学様は英検成績ダウンロードシステムをご利用いただくことが可能です。英検成績利用団体登録の後、登録団体より対象者の必要事項をお知らせいただくことで、日本英語検定協会から英検の成績データを提供いたします。TEAP についても同様のダウンロードシステムを用意しております。

参考 URL : [英検成績ダウンロードシステム | 英検 | 公益財団法人 日本英語検定協会 \(eiken.or.jp\)](#)

5. 第三者評価の在り方、調査研究等

<第三者評価について>

英検協会では、実用英語技能検定（英検）および TEAP につきまして、第三者機関による評価を定期的に受けております。各種検定試験を取りまとめる特定非営利活動法人 全国検定振興機構の「公式版」総括評価を受け、直近では 2022（令和 4）年度に受審し「合格」の認証を得ております。（2025（令和 7）年 9 月まで有効）

項目は、以下の通りとなります。

1. 検定試験の実施主体に関する事項
2. 検定試験の実施に関する事項
3. 検定試験の試験問題に関する事項
4. 継続的な学習支援・検定試験の活用促進

<調査研究等について>

日本英語検定協会では 1987（昭和 62）年より、英語教育に関する研究企画を広く募集し、研究を支援しています。研究後に提出された研究成果は、当協会発行の研究報告書等で広く公表しています。また、協会が委託する研究者が英語教育に関する研究をして、研究成果を順次公表しています。また、語彙レベル、統計的な分析（因子分析）、受験者アンケート等を対象にした妥当性検証結果を学会等で発表しています。

参考 URL : [「英検」研究助成制度 | 公益財団法人 日本英語検定協会 \(eiken.or.jp\)](#)

参考 URL : [英語教育に関する調査 | 英語教育研究センター | 公益財団法人 日本英語検定協会 \(eiken.or.jp\)](#)

大学入学者選抜における総合的な英語力評価を推進するためのワーキンググループ 英語資格・検定試験実施団体の取り組み状況について

実施団体： IDP Education

資格・検定試験名称： IELTS (アイエルトツ)

1. 経済的事情への配慮（（低所得者層への）検定料の減免等）

既に制度を設けている自治体や他の試験団体の運用を参考に検討中。

2. 地理的事情への配慮（オンライン受検システムの整備（不正行為防止対策等含む）、地方会場の拡充、高校会場の拡充等）

● オンライン受検システムの整備（不正行為防止対策等含む）

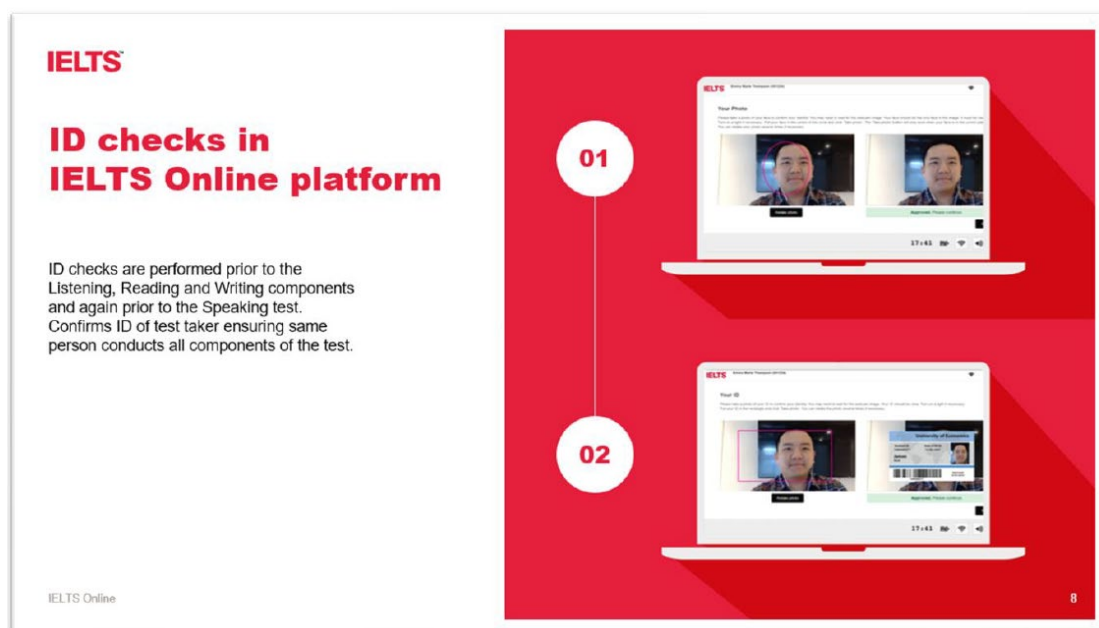
IELTS を共同運営する、弊社 IDP とブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ英語検定機構 3 団体で、自宅等で受験可能な IELTS オンライン版 (IELTS Online) を開発。IDP では、2022（令和 4）年 7 月より日本を含め世界約 30 か国を対象に IELTS オンライン版の実施を行っている。

（参考 URL：<https://ieltsjp.com/japan/lp/ielts-online-bookings-open>）

※不正行為防止対策

IELTS が設定している非常に厳しいセキュリティ基準に沿って、試験前の本人と受験環境の確認、試験中は人間の試験官監督者および AI 技術による監視、結果開示前の確認等、各段階で、不正行為防止のための対策が講じられている。

オンライン受検の際の本人確認



IELTS オンライン版のセキュリティ対策に関する動画

<https://www.youtube.com/watch?v=dX9VMY0BEkw>

● 離島・へき地への受験機会の拡大

2023（令和5）年10月現在、IDP Education では札幌、東京、大阪の3か所に公式のテストセンターを構え、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄で試験を実施中。全国でのIELTS受験情報が高まる中、離島・へき地への受験機会の拡大に積極的に取り組んでいる。

2023（令和5）年度の実績

- 沖縄での試験回数を年6回に増やす
- 鳥取県に新たな会場を設置（2023（令和5）年7月開始）
- 四国初の試験会場を高松に設置（2023（令和5）年10月開始）

（参考URL：<https://ieltsjp.com/japan/test-dates>）

● 高校会場の拡充等

全国の高校からの団体受験の相談に積極的に対応中。

【事例】 鳥取県で高校会場を活用したIELTS会場新設

鳥取県では過去にIELTSの試験実施の実績がなく、近隣県（大阪・岡山）への長距離移動と宿泊の伴う受験が余儀なくされていた。グローバル教育に熱心な鳥取市の青翔開智中学校・高等学校の会場提供により、2023（令和5）年7月より、鳥取県でのIELTSの定期開催が始まりました。

3. 障がいのある受験者への合理的配慮の推進

IELTSは原則すべての障害者への配慮を行っている。

受験上の配慮をご希望の方は、受験希望日3ヶ月前までにテストセンターにメールにて事前申請が必要となります。

（参考URL：<https://ieltsjp.com/japan/about/special-requirements>）

4. 成績提供の利便性の向上

IELTSペーパー版で受験した場合は試験日より13日後に、IELTSコンピューター版の場合は3～5営業日後に試験結果をオンラインで開示し、数日以内に国内テストセンターから受験生に試験結果を郵送しているため、受験後約1～2週間で成績が手元に届く。

また、大学がIELTSの認定機関の登録を行えば、成績証明書をオンラインで受領し、閲覧することも可能。

（参考URL：<https://ieltsjp.com/japan/about/ielts-for-teachers/ielts-recognising-organisation>）

5. 第三者評価の在り方、調査研究等

IELTSは英国政府の資格・試験監査機関であるOfqualにより「試験の内容、実施体制及びテストの信頼性・妥当性等」について第三者評価が行われている。

Ofqualとは、イングランドの公式な政府の法定規制機関で、特定の省庁に属さず議会に直接報告する。

(参考 URL : <https://www.gov.uk/government/organisations/ofqual/about>)

評価内容 :

- 試験の内容、実施体制及びテストの信頼性・妥当性等について厳密な第三者評価が行われている。
- 試験対策教材、対策講座等についても、受検者にとって「unfair advantage (不公平な優位性)」を生じないように、それを回避するための手続きを有しているかどうかをチェックする。
- 試験センターのセキュリティは抜き打ち視察を含む定期的な査察官によるチェックを受ける。
- 違反があれば、試験実施団体の活動もあり得る。

IELTS に関する調査研究は 30 年に渡って行われており、IELTS の公式サイトにて、様々な研究結果や論文を公開している。

論文例

- Noriko Iwashita, Miyuki Sasaki, Annita Stell, Megan Yucel (2021) *Japanese Stakeholders' Perceptions of IELTS Writing and Speaking Tests and their Impact on Communication and Achievement* (日本における IELTS ライティングテストとスピーキングテストに対する関係者の認識と、コミュニケーションと成績への影響)

<https://ielts.org/researchers/our-research/research-reports/japanese-stakeholders-perceptions-of-ielts-writing-and-speaking-tests-and-their-impact-on-communication-and-achievement>

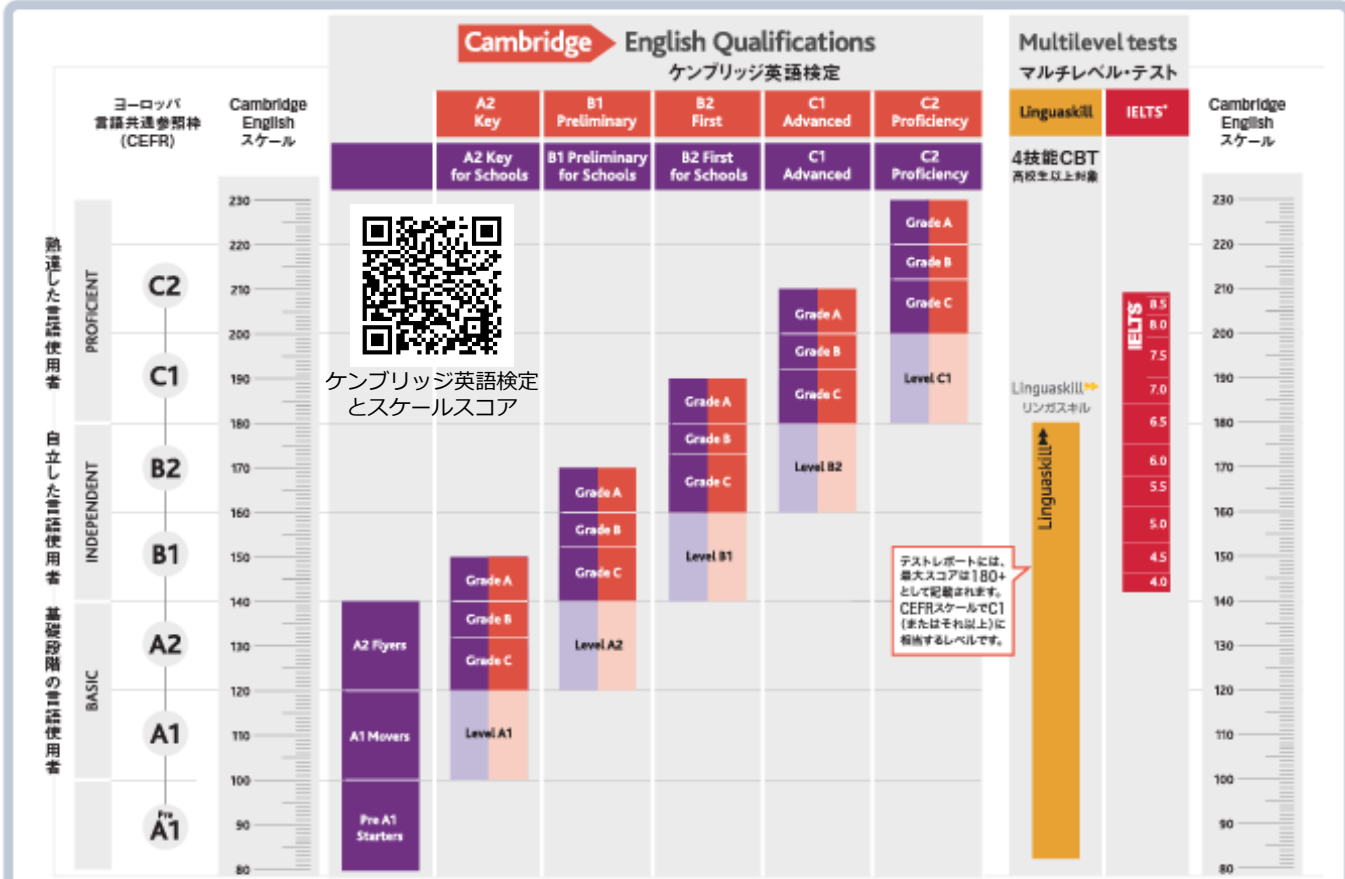
- David Allen (2017) *Investigating Japanese undergraduates' English language proficiency with IELTS: Predicting factors* (IELTS を用いた日本人大学生の英語能力の調査 : 予測要因の検討)

<https://s3.eu-west-2.amazonaws.com/ielts-web-static/production/Research/investigating-japanese-undergraduates-english-language-proficiency-allen-2017.pdf>

-

(参考 URL : <https://www.ielts.org/for-researchers/research-reports>)

Cambridge Englishスケールと各試験のスコア比較表



ケンブリッジ英語検定とスケールスコア

テストレポートには、最大スコアは180+として記載されます。CEFRスケールでC1(またはそれ以上)に相当するレベルです。

*IELTSはCambridge English スケールに換算されていますが、両スケールのスコアで成績報告されることはありません。

Schools General & higher education

ケンブリッジ英語検定の各試験はレベルに応じた特定のCEFRレベルを合格目標としています。
総合評価スコアに応じて、目標CEFRレベルの1つ上から1つ下の範囲までの認定証が発行されます。
例) B1 Preliminary および B1 Preliminary for Schoolsの場合 (目標CEFRレベルはB1) 総合評価スコアが140-159:B1の認定証、160-170:B2の認定証、120-139:A2の認定証
なお、ヤングラーナーズ対象の英語検定 (Pre A1 スターターズ、A1ムーバーズ、A2フライヤーズ)の成績報告については、目標レベルと一つ下のCEFRレベルで示されます。

| Cambridge English Qualifications | Cambridge English スケール・スコア |
|----------------------------------|----------------------------|
| C2 Proficiency | 200+ |
| C1 Advanced | 180-199 |
| B2 First | 160-179 |
| B2 First for Schools | 160-179 |
| B1 Preliminary | 140-159 |
| B1 Preliminary for Schools | 140-159 |
| A2 Key | 120-139 |
| A2 Key for Schools | 120-139 |

| IELTS band score | Cambridge English スケール・スコア |
|------------------|----------------------------|
| 9.0 | 209+ |
| 8.5 | 205 |
| 8.0 | 200 |
| 7.5 | 191 |
| 7.0 | 185 |
| 6.5 | 176 |
| 6.0 | 169 |
| 5.5 | 162 |
| 5.0 | 154 |
| 4.5 | 147 |
| 4.0 | 142 |

ケンブリッジ英語検定 & リンガスキル 導入校・企業の取り組み

Cambridge Japan Booklet

2022 Japan Booklet

2023 Japan Booklet

2023 Japan Booklet



【Japan Booklet 掲載 ケンブリッジ英語検定導入校】

近畿大学附属高等学校、工学院大学附属中学校・高等学校、佐野日本大学中等教育学校、立川国際中等教育学校、中村学園女子中学校・高等学校 (五十音順)

企業

日本航空 (JAL) がリンガスキルを活用



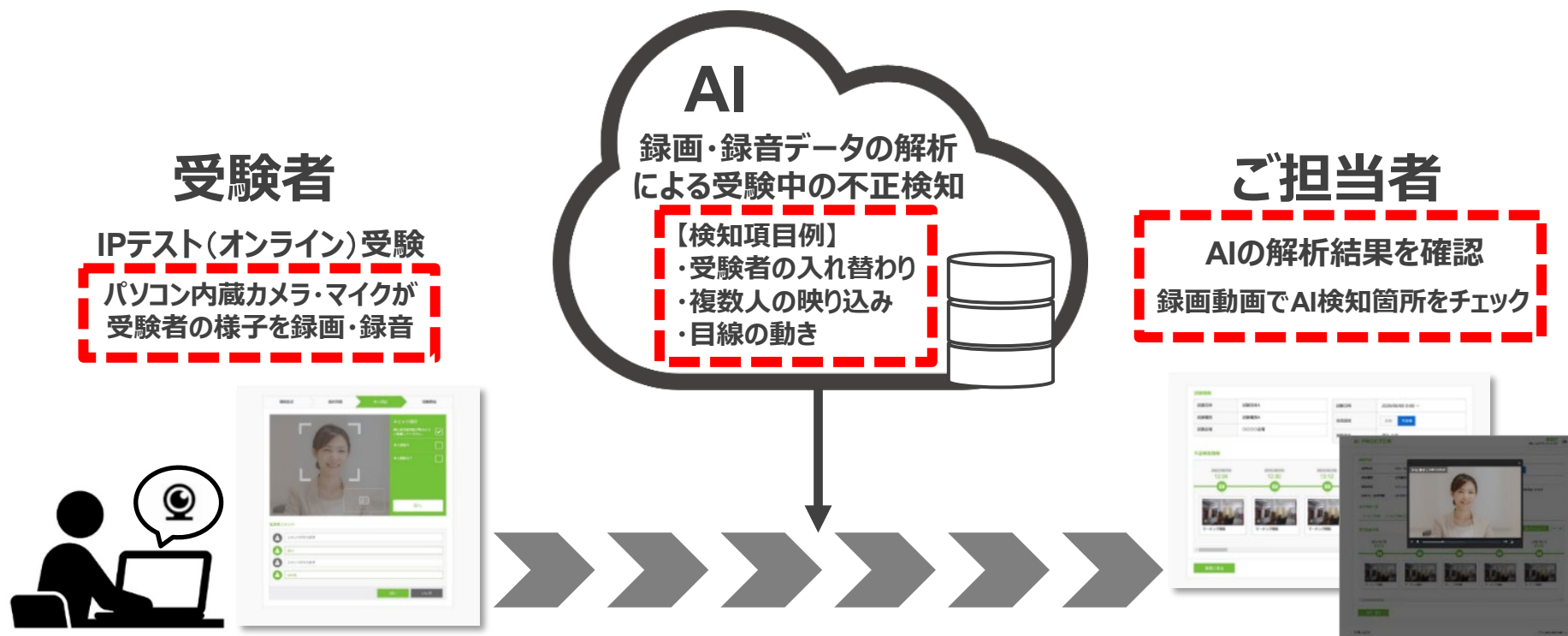
日本航空 パイロット採用担当者のコメント

パイロットに求められる英語スピーキング能力を培う上で、必要な基礎力を備えているかどうかを確認できるテストに関心があり、国際民間航空機関 (ICAO) が定める英語能力基準の目安の一つと言われるCEFR 基準で評価されるケンブリッジ英語検定についてお話を伺いました。お話の中で、リンガスキルはスピーキング能力に必要な基礎力の評価に特化しており、かつ試験結果が非常に迅速に提供されることを知り、リンガスキルの活用がパイロット採用における必要な判断材料の一つとなるのではと考えました。その後トライアルや検討を進め、安定した運用と評価に満足するいく結果を得られたことから、2020年卒入社自社養成パイロットの採用時より英語スピーキングテストに活用させていただいております。



2024-25 Japan Booklet より引用

- 試験中の不正行為検知のため、試験中の受験者の様子を録画したデータ（音声含む）をAIが解析
- 試験期間終了後、ご担当者はAIによる解析結果と録画データの確認が可能
- AIによる不正検知精度は、活用実績の増加と比例して常に向上



- テスト実施期間中であれば時間と場所を問わずご利用可能
- 特別なアプリケーションのインストールが不要
- テスト実施期間終了後、以下をご担当者専用サイトにてご確認可能

①カメラチェック時に撮影した
本人写真画像と本人確認書類画像（社員証や学生証など）

②スコア化されたAIによる解析結果

③受験中の様子の
録画データ

ご担当者専用サイトイメージ

| | | |
|---------|----------------|--|
| 本人写真 | | |
| ID写真 | | |
| ログインID | ABCXXXXXX | |
| 受験者名 | 伊込 太郎 | |
| 受験者関連情報 | 受験者に関する情報がはいます | |

AI解析不正報告情報 [ページトップへ](#)

AI解析不正報告件数：10件 AI解析不正点数：10点

2020/00/00
12:04

マーキング情報

2020/00/00
12:04

マーキング情報

2020/00/00
12:04

マーキング情報

2020/00/00
12:04

マーキング情報

2020/00/00
12:04

マーキング情報

※実際の画面と異なる可能性があります

**検知時間の10秒前から
ストリーミング再生可能**

「GTEC」検定版 特別な配慮事項（詳細）

特別な配慮事項

| 申請区分・配慮事項 | | 申請の目安 | 配慮事項 | 補足 | |
|----------------------|----------|---------------------------------------|--|---|---|
| 視覚関係(点字、弱視関連) | | | | | |
| 11 | 配慮 | 点字資料による受験(時間延長あり) 解答方法の変更 | 点字による学習を受けている場合 | 点字資料による受験[時間延長あり(技能ごとに、解答時間を約1.5倍～3倍に延長)]／解答方法の変更 ※1 | 時間管理用の資料を提供します |
| 12 | 配慮 | 写真・イラスト文字化拡大冊子による受験(時間延長あり) 解答方法の変更 | 広い範囲を一度に見ることができない場合 | 写真やイラストが文字化された拡大冊子(A4)による受験[時間延長あり(解答時間を約1.5倍に延長)]／解答方式の変更 ※1 | 時間管理用の資料を提供します |
| 13 | 配慮 | 拡大冊子による受験(時間延長あり) 解答方法の変更 | 障がい程度等級が6級程度 | 単純拡大冊子(A3)による受験[時間延長あり(解答時間を約1.5倍に延長)]／解答方式の変更 ※1 | 時間管理用の資料を提供します |
| 14 | 配慮 | 拡大冊子による受験(時間延長なし) 解答方法の変更 | 障がい程度等級が7級～14級程度の場合 | 単純拡大冊子(A3)による受験(時間延長なし)・解答方式の変更※1 | |
| 15 | 配慮 | 白黒問題冊子での解答 | 色弱などの場合 | スピーキングは白黒問題冊子(A3)を利用して受験 | |
| 聴覚関係 | | | | | |
| 21 | 免除 | スピーキング・リスニングの免除 | 音(音声)の聞き取りが困難(両耳の平均聴力レベル60デシベル以上が目安)で、話すことも困難な場合 | リスニング・スピーキングの免除 ※2 | |
| 22 | 免除 配慮 | リスニングの免除 スピーキングを音(音声)で聞き取り以外の方法で実施 | 音(音声)の聞き取りが困難(両耳の平均聴力レベル60デシベル以上が目安)だが、話すことには問題がない場合 | スピーキングを音(音声)聞き取り以外の方法で実施／リスニングの免除 ※2 | スピーキングについて、音(音声)のみで流れる英文を文字化した音声内容補助冊子と画面に表示された文字を読みながら解答いただきます |
| 23 | 配慮 | 音(音声)の聞き取りに補聴器やヘッドホンを使用 | 音(音声)の聞き取り方法に配慮が必要な場合 | 音(音声)の聞き取りに補聴器やヘッドホンを使用 | |
| きつ音、発話障がい関係 | | | | | |
| 31 | 免除 | スピーキング免除 | 話すことが困難な場合 | スピーキングの免除 ※2 | |
| 32 | 配慮 | スピーキングの時間延長 | 話し出すこと、話すことに時間を要する場合 | スピーキングの時間延長(解答時間を約3倍に延長) | |
| 33 | 配慮 | 採点者への情報連携 | 話し方に特徴がある場合 | 採点者への情報連携 | 採点者に事前に情報を連携し、注意して音[音声]を聞き取ります。なお、採点基準の観点や段落の変更は行いません |
| 上肢不自由 | | | | | |
| 41 | 配慮 | 解答方法の変更 ライティングの時間延長あり | 上肢不自由等の症状があり、英文を記述することに時間を要する場合 | 解答方法の変更 ※1／ライティングの時間延長あり(解答時間を約1.5倍に延長) | 時間管理用の資料を提供します |
| 42 | 配慮 | 解答方法の変更 ライティングの時間延長なし | 上肢不自由の症状がある場合 | 解答方法の変更 ※1／ライティングの時間延長なし | |
| 発達障がい | | | | | |
| 51 | 配慮 | 解答方法の変更 | 発達障がい等の症状がある場合 | 解答方法の変更 ※1 | |

- ※1 「解答方法の変更」：点字で解答いただいたり、問題冊子へチェックを入れて解答いただいたり、マークシートを受検者の状況に合わせて拡大して解答をご記入いただいたりすることが可能です。
 ※2 「免除」：オフィシャルスコア証明書の免除技能とトータルのスコア欄とCEFRレベル欄には「*」が表示され、オフィシャルスコア証明書内に『「*」印は、その技能の受検が免除された場合に表示されています。』の注釈が付きます。